

1. 長崎市から初めて発見された植物

◎ナガバヤブソテツモドキ(オシダ科)

テリハヤブソテツは葉の色や光沢、羽片の長さなどの特徴で、離れていてもヤブソテツや、他のヤブソテツの仲間との違いがすぐにわかります。ナガバヤブソテツに似ていますが、葉の質はナガバヤブソテツやオニヤブソテツのような革質ではなく、やや柔らかくテリハヤブソテツの葉質に似ている個体を川平町と黒浜町の2カ所で発見しました。文献で調べた結果、ナガバヤブソテツとテリハヤブソテツとの雑種であることがわかりました。両種の間での中間の形質をもっています(図1)。



図1. ナガバヤブソテツモドキ(オシダ科)

◎アイオニヤブソテツ(オシダ科)

谷に造られた法枠工法によるコンクリート枠の間に礫を入れた傾斜地は、適度の湿度が保たれているため、先駆的に侵入したシダ植物が多く見られます。琴海村松町の河川の上流部の工事跡にはオニヤブソテツとナガバヤブソテツの雑種と思われる個体が多く見られました。形態はオニヤブソテツとナガバヤブソテツの中間型をしています(図2)。長崎県からは初めて記録されました。



図2. アイオニヤブソテツ(オシダ科)

◎オオキンミズヒキ(バラ科)

長崎市琴海形上町において托葉が扇形で、1対で茎を取り囲むように大きく、茎が太い大型のキンミズヒキを採集していました。最近になって2008年に新種として記載されたオオキンミズヒキに相当するものであることを知りました。しかし、後に変種と組み替えられました。キンミズヒキに比べて茎は太く、黄褐色の開出する長毛が密生し(図3)、全体に大型で、高さ120cmを超える個体も見られます。托葉は大きく半円形で大きな鋸歯が多い特徴があります。ただ頂小葉は広楕円形のものに限らず、長崎市見崎町で採集したものはやや狭い楕円形であり、これも他の形質からオオキンミズヒキと同定しました。



図3. オオキンミズヒキの托葉

◎ヤクシマツバキ(ツバキ科)

ヤブツバキは花や果実、葉など変異に富んでいますが、果実が直径6cm以上になるものはヤクシマツバキとされて変種として区別されています。このようなタイプのもは沖縄や屋久島ばかりでなく、九州南部、四国南部、紀伊半島南部などに見られます。長崎県にも他の植物で、南方系の系統が知られており、ヤクシマツバキも分布しているに違いないと思い、果実の季節には注意をしていました。長崎半島の先端部、権現山にはヤブツバキが多いことが知られていますが、9月18～19日に長崎県近くを通過した台風14号の後に訪れたところ、ヤブツバキの果実が多数落下しており、リンゴツバキに相当する大きな果実も多く見られました。果実を6個持ち帰り測定した結果、長さ51～65cm、幅57～68cm、果皮の厚さは15～19mmでした。この大きさからヤクシマツバキと同定しました。



図 4. ヤクシマツバキの果実、左下の小さいものが、ふつうのヤブツバキの果実

2. 再発見された植物

◎ギョクシンカ(アカネ科)

亜熱帯性の常緑低木で、長崎県では五島、壱岐、新上五島(相ノ島)、平戸(下阿値賀島)、長崎に分布しており、長崎市では深堀、蚊焼島、野母、樺島に記録がありましたが、野母と樺島は現状不明でありました。野母では権現山樹叢の中に1株だけ生育していましたが、台風の影響で樹叢が荒れ、不明のままになっていました。今年再調査をしたところ、果実をつけた1株を再発見できました。県のレッドリストはNT、市はENとなっています。

◎ケンポナシ(クロウメモドキ科)

温帯域に生育する落葉高木で、対馬と長崎、諫早に記録があります。しかし、対馬を除くと、長崎市も諫早市も神社に境内に生育しているものであり、新の野生かどうか不明です。長崎市には岩屋神社の境内に大木がありましたが、以前に枯れてしまいました。しかし、神社から岩屋山を少し登った地点にもう1本を発見することができました。落葉樹で、冬には葉が見られませんが、樹下に果実をつけた枝、すなわち果実序が多く落下していました(図5)。県のレッドリストはNT、市はCRとなっています。



図 5. ケンポナシの果実をつけた枝

◎シャクジョウソウ(ツツジ科)

葉緑素をもたない菌類従属栄養植物(腐生植物)で、県内では長崎市、佐世保市、対馬市、長与町などに知られていますが、まれな植物です。長崎市では古くから岩屋山に知られていましたが、今年度岩屋山で再確認するとともに、本河内にも発見することができました(図6)。県のレッドリストはVU、市はENとなっています。

◎ウマノズクサ(ウマノズクサ科)

県内では諫早市と長崎市に知られ、長崎市では岩屋神社の入口に生育していることが知られていますが、毎年草刈りなどが行われ、数年前から見られなくなりました。しかし、今年度再び見ることができました。生育場所は残念ながら石材がおかれ、生育に適した環境ではありません。



図6. シャクジョウソウ

3. 発見された貴重植物

◎ニセコクモウクジャク(メシダ科)

コクモウクジャクに似ていますが、胞子囊群の着き方が異なり、縁辺寄りにつきます(図7)。また、葉の色がコクモウクジャクのように濃い緑ではなく、緑色ですので、何となく違って見えます。これまでは茂木付近で知られていましたが、平山台近くと琴海戸根町で発見することができました。コクモウクジャクよりずっと少なく、県内でも稀にしか見られません。県のレッドリストは NT、市のレッドリストは EN となっています。



図7. ニセコクモウクジャクの胞子囊群

◎エダウチホングウシダ(ホングウシダ科)

市内ではこれまで琴海戸根町、現川町などで知られていましたが、琴海村松町でも発見できました。県のレッドリストは VU、市のレッドリストは EN となっています。

4. 個体数が増えた絶滅危惧種

◎フクレギシダ

県内で唯一長崎市琴海村松町に生育しています。2013 年に発見した時には成株は 5 株と小さな株が多数みられましたが、2023 年には成株は 15 株以上となりました。環境が変らず、今後とも繁殖が期待されます。市のレッドリストには掲載されていませんでしたが、CR に相当し、環境省および県のレッドリストも CR となっています。

◎ヒメノボタン(ノボタン科)

ヒメノボタンは長崎県では長崎市に 1 カ所しか見られない絶滅寸前の貴重な植物です。水田の縁の土手に生育しており、草刈りによって維持されています。夏過ぎに草刈りをしないように、ヒメノボタンが新しい芽を出す 5 月に草刈りを実施したところ、開花個体が 2020 年には 26 株、2021 年には 55 株、2022 年には 350 株と増えてきました。絶滅危惧種でも適切な管理をすることによって増殖することがわかります。環境省のレッドリストは VU、県は CR、市は CR となっています。